

学生座談会【米子の暮らし編】

カレンダーも変わり、いよいよ本格的な受験シーズンに入りました。鳥取大学の生命科学科のメンバーも、新入生を迎える日が待ち遠しくなってきました。

鳥取県はあまり知られていないかもしれませんが、長い歴史と豊かな自然をもつ魅力的な土地です。そんな鳥取で4年間の大学生活を送ることは、とても有意義なことだと思います。とはいえ、知らない土地で生活するというのは不安もあるでしょう。そこでこの冊子では、生命科学科の学生さんが生活する鳥取（湖山）キャンパスと米子キャンパスの生活に関する情報を提供するために、13人の学生さんと4人の教員、合計17人で、学生座談会を開きました。このうち15人が鳥取県外の出身です。

以前にアップした関連記事『～生活費や学費～「[大学生の生活費はいくらかかるの？](http://www.med.tottori-u.ac.jp/files/2960.pdf)」』（<http://www.med.tottori-u.ac.jp/files/2960.pdf>）とともに、この記事が鳥取大学生命科学科の受験を考えている皆さんの参考になることを願っています。

●生命科学科は2つのキャンパスで学びます

生命科学科に入学した学生さんは、1年次を鳥取（湖山）キャンパス、2～4年次を米子キャンパスで学びます。このため、皆さんが鳥取から米子への引っ越しを経験します。



【鳥取キャンパス】

湖山池のほとりにあるので、湖山（こやま）キャンパスとも呼ばれています。



このキャンパスには、農学部、工学部、地域学部等があるので、ここで過ごす一年間で、全学部を横断したつながりをつくったり、仲間を見つけたりできます。

【鳥取から米子への引っ越し】

1年間の学習が終わったら、いよいよ米子への引っ越しです。生命科学科の学生全員が経験するビックイベントです。引っ越しの手配をしたり、やっと馴染み始めた土地を離れたりは大変ですが、それもまた良い経験になるようです。ちなみに座談会に参加してくれた学生さん達の場合、鳥取での家賃は月額2~4万円、米子の家賃は3~5万円。引っ越し費用は、上手にやれば3~6万円に収まるとのことでした。

*学生さん達からもらった、引っ越しを安く済ませるアドバイスをまとめます。

- ・複数社の見積もりをとって比較する（友人の費用も参考にする）。
- ・仲間同士で相乗り便を利用する、また早めに申し込みをする。
- ・友人同士や家族でトラックを借りて荷物を運ぶ。
- ・一年間を身軽に過ごす、大きな家具を持たない。

【米子キャンパス】



マップからも分かるように、こちらのキャンパスも中海（なかうみ）という湖に面していて、湖岸は米子市の湊山公園として整備されています。

米子キャンパスには医学部の3学科しかありません。ここで皆さんは、医学科・保健学科との合同講義や生命科学科独自の講義、さらには卒業研究等を通じて、生命科学について専門的な学びを深めて行きます。

● 生命科学科の学生・教員間の交流、学生さんのサポート

4年間の学生生活を有意義なものにする為には、同学年の仲間だけでなく、先輩・後輩や教職員との交流も重要です。生命科学科では、入学したての1年生を米子地区に招いて研修会をしたり、米子に引っ越してきた2年生が早く新キャンパスになれるように3年生が主体の歓迎会を開いたりしています。また、学部生から大学院生と教員が一堂に会して、進学や就職について話し合う機会もつくっています。

それでも、もしも悩んだり、不安に思ったり、困ったりすることがあったら、医学部総合医学教育センター 学部教育支援室に相談して下さい。ここでは臨床心理士の先生のカウンセリングを受けることができます。

次項は、オープンキャンパス等でよくでる質問に、先輩や教員が答えます。

Q.鳥取大学に入学する前に不安だったことは？

A1. 中国地方の出身者ばかりだったらどうしよう。

生命科学科は毎年、全国各地からの学生が集まっています。特定の地方の学生さんが多くて、自分が中に入れないう心配は、全く不要です。

A2. 町が暗い。街灯が少ない。

確かに大都会のような明るさはありません。また、人が少ない分、街灯が少ない場所もあるかもしれませんが、治安はむしろ良いです。

A3. 冬の厳しさや、雪の量が分からない。

東京や大阪に比べるとやや寒いかもしれませんが、特別な服装が必要なほどではありません。また、近くの大山にスキー場があるので雪国のように思うかもしれませんが。しかし米子の街中では、雪が積もるのは年に数回、それも殆ど 10 cm 程度で、翌日には解けてしまうので心配ありません。

A4. 公共交通機関が不便。

これは確かにそうかも知れませんが、でも鳥取も米子もコンパクトな町です。また皆さん大学のすぐ近くに住むことになるので、普段の生活の移動には自転車です。鳥取・米子市街は平地ばかりで、坂は殆どありません。もう少し離れた場所や、大きな買い物をするときには、自動車を持っている友達にのせて行ってもらうようです。

A5. 休日の暇をどうやって過ごしたら良いだろうか？

勉強以外にも、アルバイト、部活・サークル活動、一人暮らしならではの部屋の掃除など大学生には暇な時間なんてありません。それでも余った時間は、仲間の自動車に乗り合わせて神戸や広島、岡山に買い物に出かけたり、アウトドアスポーツを楽しんだり、近隣各地に小旅行や観光をしたりと、やることはたくさんあります。もちろん、テスト前には図書館にこもって勉強に励みます。

A6. 大学の勉強について行けるか、人間関係をうまくやれるかが不安。

この不安はどここの大学に行っても一緒ですよ。と同時に一番多くの方がもつ不安だと思います。先にあげたように、生命科学科では、皆さんが早く新しい生活に馴染めるように、また様々な角度からのアドバイスをもらえるような環境づくりを進めています。

それにこの学科では殆どの学生さんが県外出身で、一人暮らしをしています。だからこそその連帯感や助け合うという考え方も生命科学科の良いところの一つです。

この他には、「どれだけ田舎なのか想像がつかなかったが、思ったよりは都会だった」とか「田舎からでてきたので、それに比べれば都会だった」という意見も出ました。確かに、鳥取も米子も大都市ではありませんが、どちらにも十分なスーパー、ショッピングモール、家電量販店があるので、普段の生活に困ることはありません。それから、「米子に来ることに特に不安はなかった」という答えもありました。

Q.どのくらいの頻度で帰省しますか？交通手段は？

- A1. 夏休み、年末年始と春休みにそれぞれ1週間くらい。高速バスとJRを利用する。(学部生・北陸地方)
- A2. 年に二回、夜行バスと新幹線で帰省します。(学部生)
- A3. 長期休暇の度(3~4ヶ月に一度)に。高速バスを利用します。(学部生・中国地方)
- A4. 年に三回ほど、高速バスで。(学部生・関西地方)
- A5. 大型の休み(春、夏、冬休み)は絶対帰る。帰りたくなったら土日で帰ることもある(月に一回)。乗り換えの必要のない高速バスが便利。(学部生・中国地方)
- A6. 一年に三回、電車で帰る。(学部生・四国地方)
- A7. お盆と年末。自分の車で帰る。(修士学生・関西地方)
- A8. 年に1回。自分の車で帰る。(博士学生・九州地方)

これ以外の答えもまとめると、皆さん学部学生の間は年に2-3回(実家が近い人は4-5回)は帰省しているようです。大学院生になると研究が忙しくなるので、帰省の回数は減るようです。

Q.米子で生活するメリットは何ですか？(こちらもあわせてご覧ください)

- A1. 家賃が安く、借りられる部屋も広い。大学から自転車で10分圏内に住める。
- A2. 自然がいっぱいで、人が優しい(学生も先生も街の人も)。
- A3. 比較的落ち着いた場所で(生活に困らないが自然もたくさんある)で勉強できるところです。
- A4. 食べ物(特に魚やカニ)が安くておいしい。
- A5. 関西圏、首都圏へのアクセスが意外と良い。
- A6. 都会と違い、静かで住みやすい。学生が多いので安心して過ごすことができる。
- A7. 星がきれい。大山が近いので、ウィンタースポーツが安く楽しめる。
- A8. 四季の変化がはっきりしていて、季節を感じやすい。気軽に入れる温泉がたくさんある。

鳥取大学のメリットの一つは、自然に恵まれたキャンパスで学ぶことができることだと思います。とくに学生の間は校舎の中で勉強するだけでなく、外に出て行くことも大切です。そこで最後に、よく遊び、よく学べということで[鳥取県の公式観光サイト](http://www.tottori-guide.jp/) (<http://www.tottori-guide.jp/>) を紹介しますのでご覧下さい。

それでは、皆さんと春にお会いするのを楽しみにしています。